

## 第9グループ IM開催報告

### 第9グループガバナー補佐 濱中 實（室蘭RC）

6月3日第2510地区第9グループ第51回都市連合会（IM）が室蘭RCのホストクラブにより室蘭プリンスホテルで開催しました。

当日は石丸修太郎ガバナー、青山剛室蘭市長（室蘭RC名誉会員）を来賓に迎え、第9グループ112名が集いました。式典司会進行は室蘭RCの武田和朗会員が担当しました。

今回開催は第9グループとして3年振りの対面開催で、テーマは「国際交流・自分のイマジンを持ち帰るIM」とし、前半の式典に続きパネルディスカッションには室工大に通う留学生と学生を招き、国際交流の実体験を語ってもらいました。

参加してくれた学生は本年3月まで米山奨学生だったイラガチさん（中国）、アニス ジャズワニ キスティナ ビンティ ヒシャムさん（マレーシア）と日本人学生加藤なつみさんの3名で、自己紹介では自身が作成したパワーポイントをそれぞれ投映し、言語、文字、街の様子を説明されました。

第2部のディスカッションでは室蘭RC菅井賢治会員がコーディネーターを務め、Ⅰ国際交流とは何か Ⅱ母国と日本、あるいは世界との懸け橋になるためには Ⅲ世界の未来に向けて何が大事か、何ができるかをテーマに話してもらいました。イラガチさんアニスさん共に、日本の書類では“姓”と“名”を別々に記入しなければならず戸惑う場面が多かったと口を揃えました。イラガチさんは「将来は母国に帰り学校の先生を目指しているので、室蘭、日本での経験を伝えます」と強い信念を話されました。またアニスさんは、「将来は自分で会社をつくり、マレーシアと日本の良い文化を活かし、みんなに歓迎されることをしたいです。」と話してくれました。加藤さんは今年の2月にネパールを訪れ「国際交流できたことは貴重な経験で将来進路の選択肢に入れるでしょう」と話されました。



石丸ガバナーからは「私は皆さんひとり一人の存在が国際交流だと思います。外国に行ってその国の人と、あるいは日本に来た外国の方とコミュニケーションする。難しく考える必要はありません。ロータリーの輪も最大限に使ってほしい。互いに行き来してスムーズに話ができる環境をロータリーは整えてくれています。国際交流をぜひ、第9グループから発信していただければよいと思います。若い皆さんもぜひ、世界にまだまだ羽ばたいて、国際交流に貢献いただくことを期待しています。」と講評がありました。

登録開始の14時からと懇親会前の休憩時には「淡交会」（会長=飯尾哲也室蘭RC会員）による歓迎のお点前があり、出席された方々に一服のひとときを楽しんでもらいました。

懇親会は司会進行を室蘭RC山室幸絵会員が務め、遠藤秀雄パストガバナー（登別RC）の乾杯発声で宴に入りました。アトラクションは室蘭RC多田昌央会員による詩吟の披露、北海道大谷室蘭高等学校吹奏楽部による楽曲演奏、北海みゆき太鼓と続き、迫力ある演奏に出席者は大きな拍手と喝采を浴びせていました。

次年度ガバナー補佐紹介は鈴木高士（登別RC）氏が所用で懇親会には出席できず、川田弘教登別RC会長がメッセージを代読しました。

ロータリーソング「手に手つないでの」斉唱は、会場いっばいに繋いだ参加者の手が3年振りに結ばれ、声高らかに広がりました。閉会の挨拶は室蘭RC吉沢政彦実行副委員長が謝辞を述べ、IMを閉じました。

